

# 『時事直言』 No.1531 2022年2月18日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[twitter 日本語] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T\\_Masuda\\_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng/)

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

## ウクライナをめぐるバイデン・プーチンの猿芝居

米ソ東西冷戦最中の1989年ベルリンの壁が崩壊されソ連の衛星国内で民主化機運が高まった。当時(1990年)ソ連のゴルバチョフ大統領は全体主義の限界を知り、ソ連衛星国内の民主化機運に沿った民主化改革(ペレストロイカ)と情報公開制度(グラスノスチ)に踏み切った。ソ連圏であった東ドイツと西側陣営の西ドイツの統一の動きが高まってきた為米ソ首脳会談が持たれた。ゴルバチョフは「(対ソ軍事同盟である)NATOを東ドイツより東に拡大しないことを条件として求めたがアメリカが同意した為東西ドイツの統一を承認した。ところがソ連が1991年崩壊すると、1999年にチェコ、ハンガリー、ポーランドがNATOに加盟、さらに2004年にはスロバキア、ルーマニア、ブルガリア、スロベニア、そしてソ連領であったバルト三国(リトアニア、エストニア、ラトビア)までが加盟した。そして今やウクライナがNATO加盟に向かっている。ウクライナがNATOに加盟するとロシアとNATOとの間の暖衝地帯が無くなる。プーチンにしてみれば、今まで散々東西ドイツ統一条件を踏みにじられ、さらにウクライナがNATOに加盟すれば、いわば七首を直接プーチンの背中に突きつけられることになる。だからプーチンはウクライナをNATOに加盟しない保証を西側(アメリカ)に求めているのである。

アメリカが対中冷戦の最中であるタイミングを狙ってウクライナ周辺に軍隊を駐屯させることにより、世界の耳目をウクライナに集中させ、アメリカ主導によるロシアの対ウクライナ攻勢を(やがて化けの皮が剥がれる)フェイクニュース(偽情報)で誇張させ、何故プーチンが10万の軍隊をウクライナ国境に集結したかを世界に知らしめようとしているのである。

一方アメリカは歴史的約束違反の事実から世界の目をそらすため、丁度かつのサダム・フセイン(イラク大統領)を偽情報で悪者に仕立て、安全保障常任理事会で否決されたイラク攻撃を正当化したのと同じパターンである。

これをバイデンとプーチンの「猿芝居」と言う。

100%ははっきりしていることは「ロシアのウクライナ侵攻はない」と云ことである。

2月16日にあると言ったロシアの対ウクライナ軍事侵攻が無かったのでNYダウは高騰、ニッケイでさえ600円も上がった。またもや何者かが飽きもせず、今にもロシアがウクライナに侵攻するかの如き偽情報を流してNYダウを622ドルも下げた。NYのニッケイ先物は280円下げて27,000円割れの26,880円まで下げた。

バイデンがでっちあげの偽情報でプーチンを攻めるように日米市場にはびこる悪徳仕手グループの「三日天下」の仕掛けである。

本日の「インターネット国際政経塾」(増田塾)で、特別講義として「捏造されたウクライナ問題と株価」についてお話しすることになっている。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。